



とうきょうすくわくプロジェクト活動レポート

「花やハーブを育てる」

第1回 2歳児

2歳児は、身近な自然にふれながら好奇心を育む“自然”をテーマに活動を進めました。今回のテーマは、「花やハーブを育てる。」子どもたちは自分の手で触れ、匂いをかぎ、感じたことをことばにしていきました。



活動スケジュール

6月～9月 花やハーブを育てる／雨の日の散歩を楽しむ

7月～9月 色あそび(花や草で水あそび・草木染め)

10月～11月 落ち葉・木の実拾い

12月 氷あそび・落ち葉の観察(トレース台を使って葉脈を試みる)

活動を通して、自然の変化や手ざわり、香りを「感じる」だけでなく、そこに“どうして?”という気づきを見つけていく過程が大切にされました。

活動の内容

- ・栽培の為の土づくり
- ・植ええ
- ・水やり
- ・どのようにして植物を育てるのかを知る。

活動のための工夫と環境づくり

探究のスタートは、手づくりの「小さな花壇」づくりから。土、鉢、花やハーブの種、霧吹き、ジョウロなどを用意し、子どもたちが実際に手を動かして育てる環境を整えました。子どもたちは、土の感触を確かめながら「ふわふわだね」「なんか入ってる」と声を上げ、シャベルを持って自ら鉢に土を入れます。種を植えるときには「小さいね」「こっちは大きい」と違いに気づき、観察の目が育っていく様子が印象的でした。



子どもたちの姿から見えた“育ち”

水やりの時間には、「水なくなった」「いっぱい入れたね」「お花が飲んでるね」と、自然の変化を感じ取ったことを保育者に伝える姿が見られました。一緒に名前をつけた花には、特別な思いが芽生え、子どもたちは毎日その成長を確かめに行きます。草木あそびでは、摘んだ花びらを水に浮かべたり、草をすりつぶして色水をつくったりと、身の回りの素材から新しい発見を楽しむ姿がありました。「できた!」「きれい!」という言葉があふれ、自然の“ふしぎ”が“たのしい”に変わっていく瞬間がたくさん生まれました。

先生たちのふり返り

- ・実際に自分たちで種を植えることで大きさや形の違いに気が付くことができた。
- ・花の名前を何度も口にし覚えようとしたり、土や種、石などを自分から触ってみたりしながら更に興味を深めていた。
- ・水をあげ育てていくことで種から葉っぱや花になるということを理解していた。
- ・完成したものの写真や実物などを事前に見せ想像できるようにするとなお良かった。

“ふしぎ”が“まなび”に変わる瞬間

手のひらで土を感じ、花を見上げ、氷の冷たさに驚く。そんな日々の中で、子どもたちは自然と対話しながら、感じたことをことばにし、自分なりの発見を積み重ねていきました。この活動は、「遊び」と「学び」が寄り添う“探究保育”のやさしいかたちです。身近な自然の中にある小さな“ふしぎ”が、子どもたち一人ひとりの世界をゆっくりと広げていきました。